

## らくがく倶楽部

東播磨地域文化施設のネットワーク化を目的としたらくがく倶楽部の活動も未曾有のコロナ禍に襲われて、第10期は本当に限られた中で進められました。

主だった活動記録としては、文化施設のリモート合同会議やミニラボ、明石市立天文科学館と加古川市立少年自然の家による「『太陽に全集中!』日時計工作とお話会」、合同視察会や鶴林寺住職による講演「よもやま話 天台宗と鶴林寺」などです。

また、いなみ野学園、BAN-BANネットワークスの協力により、加古川市立少年自然の家・にしわき経緯度地球科学館・西脇市岡之山美術館・あかりの鹿児資料館・稲美町立いなみ野水辺の里公園の紹介ビデオの撮影会もおこなわれました。

今年度中には、三木中学校校長によるセミナー「三木合戦軍図絵解き」も予定しています。



## 委員長からのコメント

第10期東播磨地域ビジョン委員会は、2020年4月から61名の参加でスタートしました。コロナ禍でのスタートでもあり、リアルに集まり交流を深める機会も少なく2年間の任期が終わります。

委員の皆さんには、何か達成感もないうちに日々が過ぎたとの思いではないでしょうか。

その中においても、新しい活動グループの加入そしてリモートによる会議や未来フォーラムの開催など各活動チームも工夫を行い活動の継続を模索した2年間でした。2月には、東播磨地域ビジョン委員有志による新しい取り組みとして「東播磨ひとつながりオンラインフォーラム」を実施しました。この取り組みもそうですが、今後は東播磨地域ビジョン委員会だけのつながりではなく、各地域で同じような関心や問題意識を持つ人々とのつながりを大切に活動になればいいと思います。

10期の皆さんの2年間の活動に感謝申し上げます。ありがとうございました。いつかどこかでお会い出来ることを楽しみにしております。



## 「東播磨地域ビジョン2050」を策定しました

21世紀初頭の兵庫のめざす将来像を示し、中長期の県政の指針ともなっている「21世紀兵庫長期ビジョン」の策定から20年、改訂から10年が経ち、世界も日本も大きな変革の中にあります。

兵庫県のみならず、日本では人口減少等様々な課題が進行する中で、地域の特性に合わせて、住民が共有できる2050年の「なりたい姿」を描く新しい「全県ビジョン」を策定することになりました。

東播磨県民局でも、30年後の「2050年の東播磨の姿」を描き、そのビジョンを地域の住民、事業者、関係団体、行政等の多様な主体が共有して、実現に向けて各自で取組や施策を進めていく新たなビジョンを策定しました。

詳細はこちら→

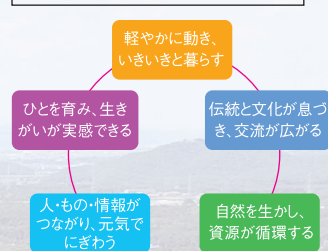


基本理念:水辺・ものづくりのまちでつながるワクワクする未来

将来像



将来像を実現するための方向性



# 東播磨

# きらっと Vision

## 第10期 振り返り特集

明石市  
加古川市  
高砂市  
稲美町  
播磨町

# 第17号

## CONTENTS

- ◆ 実践活動グループ 活動報告
- ◆ 委員長からのコメント
- ◆ 「東播磨地域ビジョン2050」を策定しました

# 実践活動グループ活動報告

## TEAM☆AGE<sup>2</sup>

チーム独自の10期の活動はコロナ禍を除く毎月の定例会のみの活動でしたが、チームを構成する元々の(個別の活動団体での)活動においては、【めいなん防災ジュニアリーダー】は、《県立明石南高等学校所属の》活動グループで、その活動は校内のみならず、近隣の幼稚園や小学校及び老人ホーム等への訪問から、明石南高校がある明石市を越え、近隣の高等学校との連携による活動を展開し、広く新聞・テレビ等のメディアにも取り上げられる活動となっています。また、大学とのコラボや、「ぼうさい甲子園」でもその名を轟かせています。

【はりまADDM-大人の発達自助会-】は、コロナ禍にあって対面での自助会が行われにくい中、ZOOMのオンライン開催にて活動を広げていきました。また、先日行われた自助会においてははじめての対面とオンラインによるハイブリッドの会で、当事者の声を当日参加の加古川市議会議員を通じて直接行政へ届ける為の自助会になりました。

最後に、今後の活動ビジョンとしては、現在、NPO法人への登録申請により、次のステージにスキルアップしていく予定です。



## ハートランドぐり石ネット

ハートランドぐり石ネットは、参画と協働の考え方をベースに、楽しい東播磨の実現の「夢」に近づくため、住民主体の活動を柱として、人と人との交流をはじめ、自らが活動の源泉となり、地域の人々が活躍できるような舞台をつくってきました。1人の100歩より100人の1歩を大切にという意識で、いろいろな活動を進めています。

10期では新型コロナ禍の中、地域活動家と連携した「てくてくハイク」の活動をしました。

10期の活動は、新型コロナ感染対策をとったため事業についての検討、打合せが出来ずに月日が過ぎていきましたが、令和2年の「てくてくハイク2020」～明石城の歴史を探索では感染防止、密を避けながら無事にやり終えました。その経験を活かしながら令和3年は新しい方式の事業をメンバーと話し合いを重ねてきましたが、令和4年に新たな変異株オミクロン感染の拡大のために検討会を中断しました。

活動が再開されたら新しい活動の実践に向けて検討を再開したいと思います。



## 夢のたね

夢のたねは「職業人と語ろう」という活動を行っています。

これは東播磨地域の小学校に様々な職業の方(以下「職業人」と呼ぶ)に集合していただき、授業の一環として児童に職業体験の場を提供する活動です。

この活動を通して児童にそれぞれの職業には固有の存在意義、やりがい、創意工夫、苦勞、喜びがあることを知ってもらい、職業への関心と将来の夢につなげて、この地域をより活性化して欲しいと願っています。

体験した児童からは多くの喜びの声を、職業人の方々、教員、ボランティアスタッフからは「素晴らしい活動です。来年度もぜひ開催してください」などの高評価をいただいています。



## ナナイロの泉

ナナイロの泉は、令和3年の秋に活動実践グループとして承認いただきました。年末年始を含む数ヶ月という期間と、コロナ禍という社会状況もあり、大きなアクションはできませんでしたが、「詩のシェアリング」をリモートを含めコンスタントに開催することができました。

「紙とペン(or スマホ1台)さえあればできる ①気楽に詩を書いてみる ②詩にふれ、味わうことで、自己内観、自己受容、相互受容…と、そこからの癒しをまずは体感してもらう」というミッションを、毎回少人数ながらも果たせた実感をしています。シェアリングでは心も体も温まり、詩が初めての方にも参加してよかったと喜んでいただきました。



## 東播磨コミュニティプランナーズ

私たちは、市街地にあるため池や水辺の未来とまちづくりについて、考え、取り組んでおります。

今期は「現状を知る」ことをグループのテーマに、加古川東高校自然科学部地学班とコラボレーション活動を進めてまいりました。

令和3年8月には、同部員を講師に迎え、市民向け講演会『ため池の「池干し」がリン循環に与える影響』をオンラインイベントとして開催することができました。

また令和4年1月には、同部が実施するため池の現地調査をサポートさせて頂きました。

今期を振り返ると、コロナ禍で出来ることと、出来る可能性を考え続けた2年間でした。

今期での気付きを活かし、アフターコロナを見据えた活動の進め方を模索していきたいと考えています。



## 輪友ネット

輪友ネットは自転車の利用を主体としたエコで健康的な社会を目指しています。

活動はポタリング(自転車散歩)で地域の良さを知って貰うなどです。ポタリングを楽しむ事により自転車を出来るだけ使う社会に変わっていければと思っています。第10期は、東播磨地域だけでなく県内外各地のサイクリングロードの状況を調査し、東播磨の中で活かせるよう取り組んでみました。

昨年度4月～6月はコロナ緊急事態宣言が発令の為ポタリングは中止しましたが、市民参加の耐久レースを計画し、候補地調査を実施、会議で協議しました。ポタリング活動は7月より平荘湖・権現ダム・播磨町・加古川河川敷レガッタ体験・網干町ロマンス街道・福知山城周辺・いなみ野ため池巡り・綾部梅林と、東播磨と他地域を視察しました。

今年度はポタリング活動として姫路城周辺・加西北条鉄道・いこいの村・平荘湖・円照寺・志方東公園・明石城・大倉海岸・柿本神社・加古川市日岡神社・稲美町史跡・古墳巡りを7月～1月迄実施。前年度から準備していた東播磨地域の参加型ママチャリ耐久レース30kmを11月13日に開催し、参加15チームで総勢49名・スタッフ16名で神戸新聞にも掲載され、家族の絆を牽で繋ぐ面白い企画と絶賛されました。

参加者からも、しんどかったけど面白かったと好評を得ました。

